

# ランドスケープと園芸療法のかかわり

山本泰之  
西武造園株式会社

ランドスケープと園芸療法は、同じ植物を扱う分野ではあるが、その接点は未だ多いとは言えない。しかし、ランドスケープが扱う空間には、園芸療法に貢献できる要素が多く含まれているとも思われる。今回は、園芸療法の構成要素である、「緑の環境」、「植物」、「人」のうち、「心地よい緑の環境」と「植物による五感の刺激」に注目し、造園空間に隠されているその要素を見つめ直してみたい。

造園の仕事は、大きくは‘空間・場所づくり’であるハード面と、‘緑空間の管理運営’のソフト面の2つにわかれる。このハード、ソフト、両面から「心地よい緑の環境」「五感の刺激」に繋がる事例を紹介していきたい。

## 1 五感を刺激する空間事例

### 1)アーバングリーンラボ (株式会社 竹中庭園緑化)・インドアグリーン



図1 観葉植物を利用した室内緑化

「心地よい緑の空間」を考えると、普通は、「公園」をイメージしやすいかもしれない。しかし、今日では、緑化技術の進歩により、室内外問わず、緑の空間を創出できる。インドアグリーン及び、室内での園芸活動は、屋外活動が困難な人に必要とされるだけでなく、施設の価値を高めるものである。多様な室内緑化は、すべての利用者

の好奇心をくすぐるだけでなく、疾患や障がいのため屋内に活動範囲が限られる高齢者にとっても、日常的に五感を刺激し、ストレス軽減やコミュニケーションの場となる。



図2 様々な室内緑化の手法

### 2)室生山上公園 芸術の森 芸術と自然の融合による空間の創出



図3 螺旋の水路

奈良県宇陀市に室生山上公園は、彫刻家ダニ・カラヴァン・井上武吉により構想・製作された公園である。緑の空間に、芸術の要素を取り込むことにより、一層の感性・好奇心を刺激する空間を演出することができる。そこは、日常からの解放と空間の広がりがあり、ミステリアスなオブジェが好奇心をそそる「心地よい空間」であると同時に

に、自らがその場に入り込んで「五感が刺激」され、行動が始まる空間である。感性・好奇心を刺激する空間は、外部への関心が乏しかったり、少しずつ活動性を高めてほしいと思われる人々にとって好ましい空間となるだろう。



図4 太陽の塔

### 3) エデンプロジェクト 学びの場としての空間



図5 巨大な温室ドーム



図6 香辛料の匂いを体感できる交易船

イギリス、コンウォール地方の大型公園施設。図6は、いろいろな香辛料の香りを体感できる交易船の模型で、植物と生活との関りを五感を通して学べる緑の空間である。「心地のよい空間」で「五感の刺激」を通じて感じ学ぶことは、机の上だけで覚えるより、何倍もの価値がある。また、遊びを通して学び、他者と共感できる空間を創ることはランドスケープの役割であり、園芸療法と共通する点と思われる。

### 2 緑の空間におけるイベント事例

#### 1) サントリー奥大山工場 中学生への植樹活動の指導



図7 植樹の指導状況



図8 植付完了 全景写真

サントリーHD(株)の水の大切さを伝える次世代環境教育「水育」の一環として、奥大山ブナの森工場周辺において中学生を対象とした植樹活動の指導。

緑を扱ったことがない人に対して、枯らさない植え方を、実演を通して、わかりやすく、やりやすく伝えることは、造園に関わるものとして必要

